

同志社大学

2009年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2010年 3月 16日 提出

所 属	職 名	氏 名
総合政策科学 研究科	教授	藤本 哲史
研 究 題 目	ワーク・ライフ・バランスとワーク・モチベーションの関連性に関する研究 ー企業の研究開発技術者を中心にー	
研 究 成 果 の 概 要	<p>2009年度は、ワーク・ライフ・バランスとモチベーションの関連性について、特に「ワーク・ファミリー・コンフリクト」の視点に基づいて既存データを用いた実証分析を行った。分析には藤本が2002年度に吉田悟と末盛慶との共同で実施した「仕事と家族生活の調和・統合に関する調査」によるデータを用いた。本分析の結果は、本年度以下の論文として学会報告を行った。</p> <p>藤本哲史、大平剛士、本間真、余ショウ「ワーク・ファミリー・コンフリクトとディストレスー男女比較分析ー」 経営行動科学学会第12回年次大会（2009年11月8日、於東京工業大学大岡山キャンパス）</p> <p>また、本年度はワーク・ライフ・バランスおよびR&D技術者に関する以下の2本の論文を刊行した。</p> <p>① 藤本哲史（2009）「ワーク・ライフ・バランスと企業組織への課題」佐藤博樹（編著）『叢書・働くということ④ 人事マネジメント』ミネルヴァ書房、pp. 133-160.</p> <p>② 藤本哲史（2009）「技術者のワーク・モチベーション」 中田喜文・電機連合総合研究企画室（編）『高付加価値エンジニアが育つー技術者の能力開発とキャリア形成』日本評論社、pp. 61-79.</p> <p>さらに本年度は上記の活動と並行して、人的資源管理施策がR&D技術者の職場における自発的努力行動（active efforts）に与える影響について分析を行った。分析結果は、以下の論文として纏め、スイスで開催された国際学会で報告を行った。</p> <p>Tetsushi Fujimoto. “Determinants of Active Effort and Creative Work Outputs of Japanese R&D Engineers.” A Paper Presented at the Annual Meeting of the Euro-Asian Management Studies Association, Ecole Polytechnique Federale De Lausanne (EPFL), Switzerland. (October 23, 2009)</p>	